

仙台教区 復興支援活動ニュースレター

4 → 6 ・ 4 5 通信

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
 〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
 カトリック仙台司教区事務局
 TEL 022-222-7371 FAX 022-222-7378
 義援金振替口座：02260-9-2305
 名義：カトリック仙台司教区本部事務局

今回は、2013年5月から、地道に雄勝の仮設住宅訪問を続けておられるカトリック西仙台教会の支援活動と、八木山オリーブの会の活動に千葉県市原市にあるカトリック五井教会の3人の信徒が、協力して下さった記事をご紹介します。

仮設 雄勝森林団地を訪問して

カトリック西仙台教会

猪岡 光

「雄勝硯」の産地として全国的に有名な宮城県石巻市雄勝町は、宮城県北東部にあり、太平洋に面した町です。2005年4月1日、市町村合併により新生石巻市の一部となりました。

東日本大震災により、雄勝町では人口約4,300人のうちの3,000名ほどが津波により被災し、家屋が流出しました。中心市街地である雄勝町雄勝地区にはおよそ630世帯が住んでいましたが、津波によって590世帯ほどの家屋が全壊流出しました。震災による死者は165名ほどに上り、今なお71名の方が行方不明です。

私たちの訪問している仮設雄勝森林団地は、雄勝湾の最も奥にあります。石巻方面からの国道を北上川に沿って海岸方向に進み、大川小学校の手前を大きく右に曲がって峠を越えます。さらに、海岸から車で5、6分進むと、森林公園内の仮設団地に到着します。



静かな自然の中にあり、季節には桜の花やツツジの花で彩られます。リスなどの小動物に加え、野生の鹿を見ることもあるそうです。この仮設住宅は2ヶ所に分かれており、現在は36世帯66名あまりが入居しています。入居者は50代～80代の方々と、平均年齢65歳となっています。昨年8月に初めて訪問した頃はもう少し入居者が多かった気がします。仕事や子供の教育などの理由で別な場所に移動された方々もおられました。

この仮設団地を訪れるきっかけは、聖ドミニコ学院小学校の先生で雄勝出身の方の紹介でした。昨年5月に聖ドミニコ女子修道会のシスター安藤と先生がこの仮設団地を訪問してから、西仙台教会の有志が定期的に訪問するようになった次第です。

普段、仮設団地を訪問する際は、集会所で入居者の方々と懇談をして過ごしますが、予定された行事があるときには、私たちもその行事に参加します。ダンベル体操の時には、みんなで小さい重りを手に持って体を動かします。持った時には軽いと感じますが、簡単な運動をした後では、普通の体操とは違う疲れを感じました。この地域でポピュラーな「雄勝音頭」の練習に参加したこともあります。短時間で覚えるのは難しく、早々に手拍子だけの参加になりました。



また、仮設団地には料理やケーキの得意な方々があり、いつも美味しいお料理をご馳走になって帰ることになります。漁業に携わる方もおられ、新鮮なホヤやホタテを私たちのために準備して下さるのには、恐縮します。

「雄勝森林団地の会」庶務担当の山下照夫さんは、震災時のお話や雄勝について説明をしてくださいます。山下さんは雄勝小学校前に文房具店「ヤマテル」を長年開いてきました。地震の直後には、津波

の危険性をいち早く小学校に連絡したとのこと。先生方の素早い適切な対応で生徒は無事に避難することができましたが、たまたま自宅に戻った1名が津波の犠牲になったのは残念と語っていました。

また、遣欧使節船であるサン・ファン・パウティスタ号を建造したのは、この雄勝（船戸神明地区）であることは資料からして明らかなのに、それがあまり知られていないのは残念であると、何度も話しておりました。雄勝の歴史と伝統に熟知しており、雄勝を愛する気持ちが伝わってきます。

仮設団地にお住まいの皆さんは、それぞれのつらい経験をもって、この場所で一緒の生活を3年あまりしているわけですが、時間の経過の中で、お互いの理解が進んでいるように見受けられます。遠慮ない会話は、そのような雰囲気を与えてくれます。

最近、復興住宅の計画が少しずつですが進んできたようで、そのための抽選会があるのではないかとの話もあり、3年半を過ぎた現在、やっと皆さんの将来を考える具体的な話題を聞くようになってきました。

海岸の側は、少しずつ整地されてきました。しかし、新しい建物はほとんどありません。それは、災害危険区域に指定されているからです。災害危険区域の指定日以後は、住宅、アパート、ホテル、民宿、児童福祉施設、医療施設など居住の用に供する建築物の新築や建替え、増築・改築等ができないという規制があるのです。

居住の用に供さない建物（倉庫、作業小屋、事務所、店舗、工場など）は、建築することができるため、新しい工場が稼働を始めており、昨年には海産物を扱う店が一軒開店しました。

しかしながら、海辺の周辺は広々とした空地であり、以前の街並みを思い出させるものはありません…。再度この周辺に住みたい、昔の活気を取り戻したいとの話は聞きますが、規制により自由に動けない無念さも伝わってきます。



カトリック五井教会

落語聞き隊 亶理仮設訪問

『仙台、みちのくミッション』 橋本 恭子

亶理仮設住宅には、80世帯の方々が生活しています。昨年、訪問させていただいた時は、「仮設での生活は、あと1年くらいですかね」というお話しでしたが、オリンピックのため建設業者が一気に減り、あと2年は仮設での生活を余儀なくされると。

そんな中、力強く支え合いながら生きていらっしゃる皆さん。「何か必要なものは?」「お金や物よりも、皆さんが来て下さること。」「忘れないつながら」を続けていく大切さを強く感じました。



『落語聞き隊 亶理仮設訪問 2014.8.27』 佐々木 樹生

今回、八木山教会オリーブの会の活動に初参加させていただきました。八木山教会は、12年前に全焼したという事を聞き驚きましたが、もっと驚いたことは、そのまま無くなることが決まった時、青少年たちが声を上げ、全信徒協力のもと八木山教会を再建することが出来て、今があるということでした。『すごい!』教会に対する思い! 八木山教会から、亶理市にある、仮設住宅に訪問に行きました。(車で1時間くらいかかります)

仮設住宅に住む人たちみんなが暖かく迎え入れてくれたことが、すごく嬉しかったです。それにみんな明るく元気に、笑っていて、僕たちも、元気をもらいました。



でも、笑顔の裏には、一人一人、辛いことや、沢山の悩みを抱えているのも実感できました。実際にみんなと触れ合ってみて、大変な出来事があったからこそ、みんなで協力しあって、戦うぞ!! っていう雰囲気が伝わってきました。

何より驚いたのは、みなさん物凄いパワフルだったことです。

今回仮設住宅に、東北大学の落研クラブから3名の方が来てくれました。落語を聞くのは、初めてでした。とても面白かったです。人を、笑わせるって、すごいなって、思いました。みんなの笑顔を見たら、何だか、幸せな気分になりました。

そのあとに、被災地の現場を見せていただいたのですが、本当に、ここ一面に住宅があったのって思うくらい、今はなんにも無いのです…。未だに残っている津波の爪痕の凄まじさを感じさせられました。

野田さん、八木山教会の皆さん、仮設住宅の皆さん、落語家の皆さん、今回は貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。そして、僕たち3人を送り出してくれた五井教会の方々、チャリティーでカンパしてくださり、お祈りを捧げてくださった皆様、心から、感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

“互いに重荷を担い合いなさい。そのようにすれば、キリストの律法を全うすることになります。”
(ガラテヤ6. 2)

『落語聞き隊 仙台初上陸記 2014.8.27』 マーク・ジョン

8月27日午前6時頃、宮城県仙台市に無事到着!! 思ったより寒く、長袖を着ていたのは正解だった。仙台に行く前に、今回お世話になる八木山教会の野田さんから、「宮城県は最低気温が17℃位なので、長袖一枚持参した方がいいですよ」と連絡があり、みんな長袖で参加となった。

今回は仮設住宅の方々と一緒に落語を聞くというものの、落語自体あまりわからないので不安でしたが、皆さん素敵な笑顔で僕たちを迎え入れてくれて、感動しました。津波で家が襲われ住む場所がない人々でも、笑顔を忘れず頑張ってる姿を見て惹かれました。何か温かいものを皆さんから感じました。

落語が追々始まり、皆さんがその落語に大きな笑い声、横で見ていた僕は何か心の底でホッとした感じになりました。あれほど、大きな被害を受けた人たちが、あんなにも笑顔になるなんて…。宮城県民、被災された方々の強さを感じました。

そのあと、お昼になりご飯を食べながら、皆さんと交流して色々話を聞いて色々な事を知り、痛感しました。皆さんが諦めない心を持っていることに、本当に感動しました。話していると時間がどんどん過ぎて、あっという間にバイバイの時間に。



僕ら3人は野田さんの車に乗り、実際に津波の被害を受けた現場へ行きました。現地に着いた僕は、声がでないくらいに仰天しました。言葉を失いました。着いた場所一帯全部が砂地になっており、家が一つも残ってない光景…。そこには被災前たくさんの家が建っていたそうです。全てを破壊し尽くしてしまうと思うと津波の被害は怖くて仕方ありません。僕は何故か急に寂しい思いになりました。考えたらそこは仮設住宅者にとって沢山の楽しい思い出や悲しい思い出があった場所だったからです。そして、この被災があった3月11日は神様が何かくれたサインの意味があるのではないかと…。未来なんて誰も知らない。けど、神様は知っている。

あれから3年ですが、ある程度は復興しているけれど全部とは言えない。そんな中であっても、希望だけは捨てないみんなの気持ちが素敵で、心から応援したいと思いました。

今回、この被災地へむけて僕たち若い世代は何ができるのか？
そして、これを機にこれから僕らはどうすべきであるか？ 未来は結局自分で決めることが一番大事になってくると僕は思います。宮城県仙台、仮設住宅者、復興作業に頑張ってる人々にいつも神様のご加護がありますように。今は、被災地の皆さんの復興と健康を祈り、これからも共に頑張りたいと強く思いました。

“いつまでもなくならずに、永遠の命に至らせる食べ物のために働きなさい。”(ヨハネ6、27)